

渡辺復興大臣岩手県訪問ぶら下がり記者会見録
(令和元年6月20日(木) 15:05～15:08於) 陸前高田市)

1. 発言要旨

本日、陸前高田市の戸羽市長にご同行いただきながら、今泉地区、広田湾漁業協同組合及び陸前高田商工会を訪問いたしまして、復興の現状や課題などについてお話をお伺いしたところでございます。

これらの視察を通じ、陸前高田市の復興が前進していると感じる一方で、まちづくりや産業・生業の面において、引き続き取り組んでいかなければならない課題もあると感じました。

また、市長からは、復興完遂までの支援継続、移転跡地の利用推進、持続可能な地域公共交通の構築について御要望いただきました。

こうした課題についてしっかりと受けとめ、今後も復興庁として、陸前高田市の現状、要望を踏まえながら、支援していきたいと考えております。

2. 質疑応答

(問) 被災地では区画整理事業、高田でも2カ所、2地区でやっているんですが、その中で未利用地が多く出ているという現状問題があります。それについて、国としてどのような形で支援をお考えでしょうか。

(答) 現在、さまざまな形で確実に区画整理を進めているところでありまして、この移転元地の土地利用対策については大変重要な課題だというふうに認識をしております。

復興庁としましても、具体的なニーズを踏まえて、自治体がお考えになっていただいております土地利用について支援をしてまいりたいというふうに思います。

また、土地の集約や土地情報の整理、発信など、利活用の担い手を見つける取り組みも自治体と一緒に進めているところであります。こういった問題につきまして、一緒に進んでまいりたいというふうに思います。

(問) 復興創生期間が残り1年半と少しですけれども、その中で区画整理だったり、もしかしたら事業が終わらないかもしれないという懸念も出ております。そういった中で、国として今後の対応というのはどのようにお考えでしょうか。

(答) 復興創生期間の問題については、少なくとも年内に基本的な考え方を示しすると同時に、各種事業については進捗度合いなど

さまざまな検証をしながら、今後どうするかということも全体として今年中にお示しをしていきたいというふうに思います。

(以 上)